科目ナンバリング			
授業科目名 <英訳>	地球科学実験 Experimental Practice of Earth Science	担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 鎌田 浩毅 人間・環境学研究科 教授 酒井 敏 人間・環境学研究科 教授 石川 尚人 人間・環境学研究科 教授 小木曽 哲 人間・環境学研究科 准教授 加藤 護 理学研究科 准教授 渡邊 裕美子 防災研究所 教授 西村 卓也 非常勤講師 谷口 慶祐

群	自然科学科目群	分野(分類)	地球科学(基礎)	使用言語	日本語

旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	2コマ	授業形態	実験（対面授業科目）

開講年度・開講期	2025・前期	曜時限	火3・4	配当学年	主として1回生	対象学生	理系向

[授業の概要・目的]

地球は人類にとってかけがえのない存在である。しかし、その地球を我々はどこまで知っているだろうか？人間に比べて地球は空間スケールが桁違いに 大きく、そして時間スケールも桁違いに長い。しかも、複雑でいろいろな側面を持っている。そんな地球を紙の上の情報だけで理解するのは不可能である。とにかく、手足を動かし、実際の地球に触れて実感することが第一歩である。
実験・実習を通じて、地球の様相や営みの様々な面やそれらを探究する複数の視点に触れることで、地球及び地学現象への興味・理解を深める。

[到達目標]

地球科学の諸現象、諸分野に触れることで、地球科学的な現象や「地球」（地球科学）への興味と理解を深めることができる。

[授業計画と内容]

　地球科学実験では、数人ずつのグループに分かれて、地球および太陽系に関する６つのテーマに関して２週間ずつ実験を行う。半年ですべてを網羅することはできないが、できるだけ多くの視点で地球を見ることができるようになることが目標である。
　実習テーマとしては、超高層・地磁気・太陽系、気象・大気・海洋（地球流体）、固体地球（測地、地震、物理探査）、地球構成物質、地質・古生物というカテゴリーから７～８テーマの実習を設定する。具体的には、電波による流星観測、気象観測、地球における流体の挙動、地球磁場の計測、重力測定、 地面の高さの測定、地震波解析、大文字山地質巡検、岩石・鉱物の肉眼／顕微鏡観察、化石に基づく環境解析などの実験がある。これは例示であるので、今年度の実験内容は、下記URLを参照して下さい。
　実習は、上記記載の担当者以外に理学部等本学の地球惑星科学関係の部局の教員が担当します。詳しくは下記URLで確認してください。

　第１回目の実習時にガイダンスを行います。受講希望者はこのガイダンスに必ず出席してください。本実験の概略と個々の実習テーマについて説明し、その後、受講の受付を行います。その受付に基づき、グループ分けを行います。

地球科学実験(2)へ続く↓↓↓

地球科学実験(2)

[履修要件]

高校地学の履修は前提としない。
初回の実習日においてガイダンスを行い、履修の受付を行う。受講希望者は必ず出席すること。

[成績評価の方法・観点]

出席状況、実習内での課題達成度合、レポートなどの総合評価。詳細はガイダンス時に説明します。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

http://www.gaia.h.kyoto-u.ac.jp/~geoexp/

[授業外学修（予習・復習）等]

ガイダンス及び各実験課題において指示する。
実験課題によっては、事前の準備が必要なものあるので、実験スケジュールは確認しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

「学生教育研究災害傷害保険」などの傷害保険への加入をしておいてください。
野外実習を伴う実習課題があります。その場合、交通費等の経費の負担（個人負担）が生じる場合があります。詳しくは、第１回目のガイダンス時に説明します。

[主要授業科目（学部・学科名）]